

## 芭蕉さんの旅

芭蕉さんは何度も旅をして、いろいろな場所で、その地方の様子や旅の感動を俳句とともに、旅の日記ともいえる「紀行文」にまとめました。

中でも「奥の細道」は五ヶ月間（約二四〇〇キロメートル）にわたって、奥羽・北陸地方を中心に大旅行をした時の「紀行文」で芭蕉さんの代表的な作品です。作品は大垣で終わっていますが、芭蕉さんは、その後伊勢に向い、郷里の伊賀上野にも一時、足をとどめました。

次の俳句は、その「奥の細道」の中でも、特によく知られたものです。

- ① 行く春や鳥啼魚の目は泪
- ② あらたうと青葉若葉の日の光
- ③ 五月雨の降のこしてや光堂
- ④ 夏草や兵共が夢の跡
- ⑤ 閑かさや岩にしみ入る蝉の声
- ⑥ 五月雨をあつめて早し最上川
- ⑦ 象潟や雨に西施がねぶの花
- ⑧ 暑き日を海に入れたり最上川
- ⑨ 荒海や佐渡によこたふ天河
- ⑩ 蛤のふたみに別れ行く秋ぞ

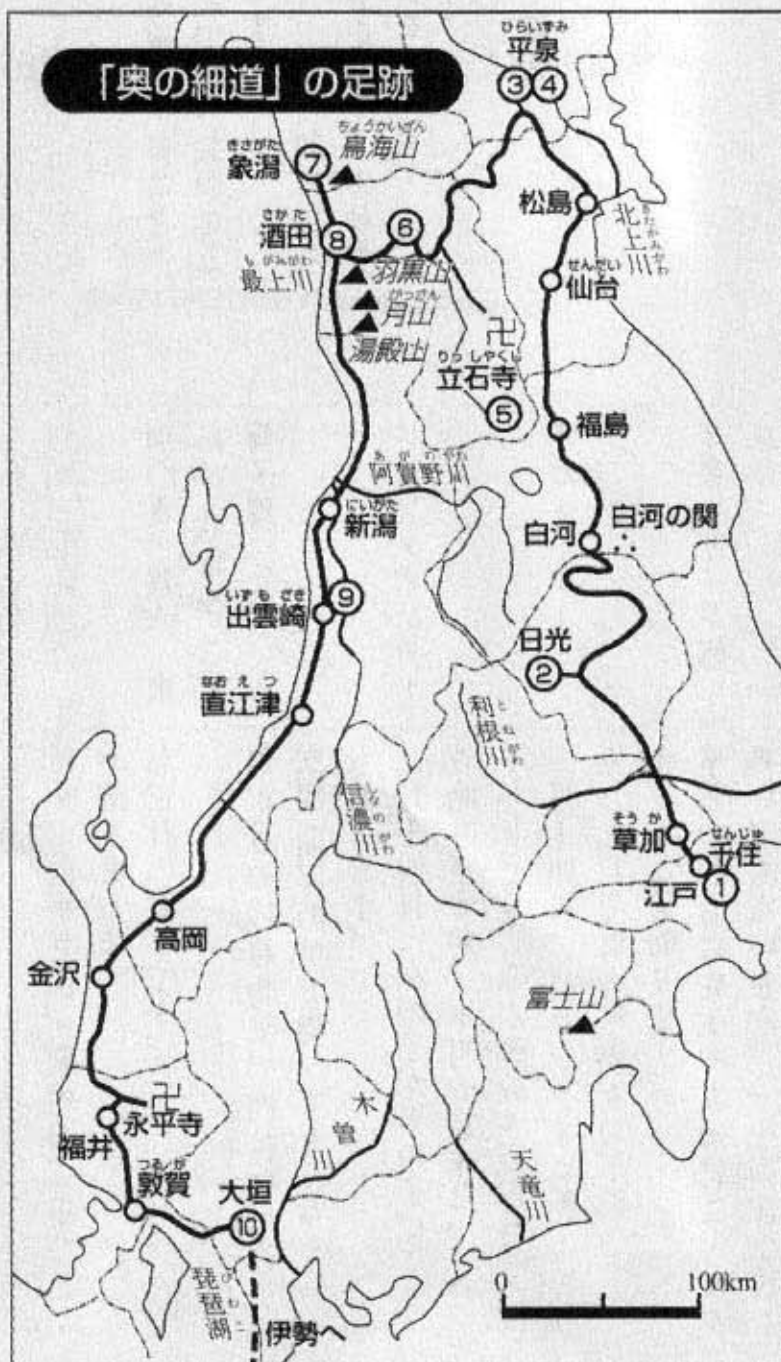
- (千住) (日光) (平泉) (平泉) (立石寺) (最上川) (象潟) (酒田) (越後路) (大垣)



芭蕉旅姿



俳聖殿  
(三重県上野市丸之内上野公園内)



※右ページの俳句は地図の中に示された番号のあたりで作られました。